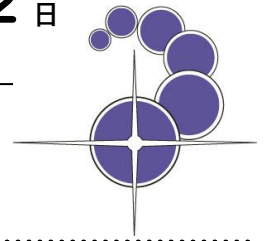


4

CREATIVE

学年日より

第11号 令和元年7月12日



県立村上中等教育学校（15期生）

● 渡航の準備はいかがですか？

社

会福祉士の仕事

新潟医療福祉大学 青木 茂 先生

社会福祉士の仕事について、これまでほとんど何も知らなかったが、どのような仕事かを知ることができた。また、社会福祉士は国家資格で、歴史が浅く、人数が少ないものだと分かった。とても幅の広い仕事なので、大学や専門の学校などで様々な知識を身に付けなければいけないと感じた。社会福祉士が活躍する職場は少ないと思っていたが、地域の支援センターや、病院、学校、刑務所など、多くの職場で活躍していることが分かった。それだけでなく独立開業もあり、知的障がい者のお金の管理などを主とする成年後見人などがあることがわかった。

さらに、現在著しく発達をしているAIには、人の気持ちになって考えることができないため、社会福祉士の仕事はAIにとって代わられることはないということも分かった。これからの職業選択の中で、この仕事もとても興味深いものであると思った。

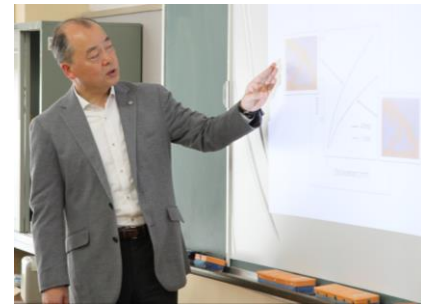


か

たちと強さ

新潟大学 阿倍 和久 先生

工学と聞くと、ロボットや基盤のイメージが強かったが、意外にも身近で活躍しているものもあるのだと感じた。橋や鉄道の線路の構造、道路やダムなどだ。また萬代橋のアーチ構造は、カテナリーというひものたるみの構造で、力のバランスがとれている。なぜ、アーチ状の石橋は崩れないでずっと建っているのか疑問だったが、理解することができてよかった。水道管の筒状の構造も、内側からの水圧による変形を防ぐものだと分かった。飛行機が筒状で断面が円形になるのも同じ理由だと知った。トラスという構造は、軽くて曲げに強いということを知った。また、ペリカンの骨にも同じトラスがあることが分かった。生き物は人間が作ったものではないのにも関わらず、トラスのような丈夫な造りがあることを面白く思った。今回、大学の講義はどのようなものかを知ることができて良かった。



P

resentation A to G

国際教養大学 内田 浩樹 先生

プレゼンテーションがこんなにも奥深いものだとは思わなかった。特に落語のスピーチがとてもうまく聞いて面白かった。これを海外研修で使えるように応用していきたい。またどんなに難しい英文でも簡単な文に置き換えれば自分でも文が作れることがわかった。しかし今そのための単語の知識が圧倒的に足りないのもっと勉学に励む必要があると感じた。英語が少しだけ面白くなってきたので、この気持ちを忘れないようにしていきたい。オーストラリアの語学研修では、スピーチの内容を忘れないように、練習を頑張りたい。大勢の人の前だと緊張してしまい、スピーチの内容がすべて飛んで行ってしまことが多いので、それを吹き飛ばすくらい、練習をしていきたい。



「薬

学」に関するお仕事

新潟薬科大学 久保田 隆廣 先生

この講義を受けて薬学に関する仕事は薬剤師だけではないことがわかった。「薬学 = 薬剤師」というイメージが強かったが、製薬会社や化粧品会社も就職先になることがわかった。この講義では実験の要素が多くとても楽しかった。普段、薬の溶ける様子を見ることや、いろいろな種類の薬を一度に見ることはないもので、なんだか新鮮だった。具体的には吸入薬のデバイスの種類がたくさんあって面白かった。用途や吸収のしやすさ、その時の状況に応じて、様々な形の薬があることがわかった。今回の講義で薬の面白さを知り、薬学について興味を持つことができた。将来就きたい職業として薬剤師も良いと思ったが、人の命にかかわる職業であるので、生半かな気持ちで志してはいけないなど思った。



アボリジニって？

さて、アボリジニという民族をご存知だろうか。とあるイギリス人がオーストラリア大陸を発見する前までは、やや原始的ではあるが平和に暮らしていた民族である。彼らは独自の文化を持ち、独自の言語を持つ。現在は主に北部準州と南オーストラリアの北部に多く居住しているようだ。彼らはオーストラリアを語る上で、歴史上なくてはならない民族である。

歩み寄りの関係

これまでたびたび、現地の住民とアボリジニの衝突がなかったわけではない。そこで、今は政府が先頭になってアボリジニと住民たちとの共存を目指している。今までのアボリジニに対する政策を反省し、お互いの立場・文化を尊重し、今後はうまくお付き合いをしていきましょう、ということである。少し前の話になるが、2000年のシドニーオリンピックで聖火ランナーを務め、陸上の女子400メートルで金メダルを取ったキャシー・フリーマンはアボリジニであり、民族の希望の星である。しかし、実際のところ、その他の多くのアボリジニの身分が高まっているかといえわかりません。これからの経過を注目したいところです。

アボリジニの集會？

アリススプリングスで散歩していると、空き地にアボリジニのみならず他の住民たちもどんどん集まってきた。何のイベントかと、少し楽しみにしていたら、アボリジニと白人の結婚式が開催されるとのこと。いわゆる人前(じんぜん)結婚式だった。現在もアボリジニに対する偏見や差別が残っていると思っていたが、現地の人々の中では問題ではないことになってきているのかと思い、ちょっと安心。「人類みな兄弟」を実感しました。

運転免許証

普通、海外へ旅行するときは国際免許証(免許センターにパスポート等の書類を提出し手数料を払えば出してくれる)を手に入れば、だいたいどの国で車の運転をすることができます。しかし、私が長期滞在したサウスオーストラリア州では、3ヶ月以上滞在するものは、現地の免許証を持たなければいけなかった。幸い、日本語での受験も可能だったので、比較的簡単に免許を取ることができた。

実技試験もあったのだが、日本のように自動車教習所というものではなく、自分で勉強して、試験センターで筆記試験を受ける。筆記に合格したら、いわゆる「仮免許」が与えられ、親や他の免許保持者から運転の仕方を教えてもらう。大丈夫だと思ったところで、町に数人いる試験官に予約し、実技試験を受ける。英語で「あっちに行け」とか「あそこを左に曲がれ」とか言われながら、タクシーの運転手にでもなっ

たかのように運転して試験は終了する。私はそれまで3ヶ月間国際免許証で町中をビュンビュン運転していたのだから、それで落ちたら大変なことになる。当然合格でしたが。

ちなみに免許を取っていい年齢は16才。高校生は車を運転して通学することも可能。サウスオーストラリアの各高校には生徒が運転してくる車のための駐車場もあった(クイーンズランドでは不明)。さすが広大な敷地のオーストラリア！！

交通上の問題点

免許も取得し、安心して運転する。車は日本と同じく左側通行、ハンドルも右ハンドル。問題はない。はずであった。しかし、この国には日本にはないものがある。それは、「カンガルー」という生物であった。

ラウンドアバウトとカンガルー

日本ではあまり目にしないものとしてラウンドアバウト(実は昨年度新潟県にも設置されました)とカンガルーがある。ラウンドアバウトとは、信号のない交差点にある丸いもので、自分の右から来る車すべてに道を譲りなさいというもの。最初は戸惑ったが、ある意味ラウンドアバウトに行ったら、右側だけ注意して見ていけばいいので、慣れてしまえば楽であった。



▲ラウンドアバウト (Wikipedia より)

食事について

これまで数家庭にステイさせていただいたことがあるのですが、食事はステイした家によってさまざまでした。各家庭の出身がオーストラリアだったり、アメリカのテキサスであったり、イギリスであったり、さらに昨年はアイルランドであったりしたので、それぞれの特徴が一番出たものが食事だったかなと感じます。アメリカのテキサス出身の家庭では、メキシコに近いこともあり、タコスなんかも食事に出てきたし、イギリス出身の家庭では、オーブンで焼いた肉のかたまりをスライスしたものとマッシュポテトなど付け合せの野菜であったり、それぞれユニークでした。基本的にはあまり米は食べないらしく、「今日の夕飯、米ないの？」みたいな日が続いて、お米が恋しく感じたことがあったりします。一昨年のホームステイでは、ホストマザーが、日替わりでイタリアン、オーギーなど、気を遣ってくれました。ジャパニーズの日もあり、「それはあなたに任せるわ」だって。なるほど。